

## 須田彰一郎：第9回国際藻類学会沖縄プレコングレスツアー開催記

第9回国際藻類学会前の7月28日から31日に沖縄でのプレコングレスツアーを行いました。私自身が海藻の素人なので、南の海藻のプロにお手伝いいただき、参加者に満足してもらう必要がありました。そのため3月のワークショップと同様に、鹿児島大学の寺田竜太先生、東京海洋大学の大葉英雄先生に大会前の忙しい時期であることを承知で、無理を押ししておいでいただくことにしました。また、参加者が最大20名で、沖縄に来て海に入らない訳にもいかないだろうと考え、現地スタッフとして、(株)沖縄環境分析センターの岩永洋志登さん、岩橋浩輔さん、藻茂の宮本奈保さん、博士研究員の加藤亜記さん、学部学生の石川祥子さんにもご協力いただきました。

7月28日に参加者はそれぞれに沖縄入りし、JTBさんの案内で国際通り散策などをしました。参加者は9名で、しかも海藻関係の専門家はなしという、想定外の参加者でありました。それでも海藻採集をメインに予定を組んでおり、変更する訳にもいきませんでした。7月29日、午前9時に那覇のホテルを出発し、11時に瀬底実験所入りの予定でしたが、日本のコンセントがあわない参加者がいて、急遽電気屋巡りをする事になり、同行した大葉先生にはご苦労いただきました。運良く名護に入ってからホームセンターで購入できました。瀬底実験所に遅れて到着後、沖縄弁当で昼食、スタッフ紹介もそこそこに、着替え後、チャーターしたバスで備瀬崎に出かけました。結局のところ参加者は海藻にそれほどの興味はなく、南の海と太陽を満喫してもらうことになり、採集後の実験室での観察とソーティングはもっぱらスタッフが喜んでやることになりました。夕食はバーベキューを準備し、

自己紹介を交えて盛り上がりました。7月30日、午前中に瀬底実験所の船を出してもらい、瀬底島周辺でサンゴが復活しているところ、ソフトコーラルが優占しているところ、などなど、予定を超過してサンゴの海を楽しんでもらいました。昼食後少し休んで、お手伝いいただいた方々とお分かれし、チャーターバスに乗り沖縄美ら海水族館の見学をし、夕食後瀬底実験所に戻りました。7月31日、朝方実験所を出発し、途中、世界遺産の中城城跡を見学して、太平洋と東シナ海を同時に眺めて記念撮影しました。大葉先生が昼過ぎの飛行機だったので先生と私はここでお別れし、寺田先生が最後までご一緒されて、もう2泊沖縄にいる人、1泊する人、東京に向かう人とそれぞれに分かれ、学会会場での再会を約束しました。

参加者は、チェコのコマレック先生ご一行が4名、ロシアのニクリーナ博士とお嬢さん、カナダのニコル博士、韓国の博士課程の学生のキムさんとブーさんの9名でありました。例年なら台風も懸念される時期でしたが、海も荒れることなく、天候に恵まれ、体調を崩す人も出ずに、参加者を始めスタッフも大変楽しむことができました。

最後に9名の参加者の皆さん、寺田、大葉両先生、現地スタッフで助けていただいた岩永さん、岩橋さん、宮本さん、加藤さん、石川さんに御礼を申し上げます。また、ツアーの予定や予算などで大変ご苦労いただいた、国立環境研究所の河地先生、何度もやりとりをしたJTBスタッフの方々、現地添乗員の大湾さん、瀬底実験所で大変お世話になった中野先生、内間さんに御礼申し上げます。

(琉球大学・理学部海洋自然科学科)



瀬底実験所の船でサンゴの海へ



沖縄プレコングレスツアー参加・関係者